

森のおくりもの7月



トモエソウ（オトギリソウ科）



まだ梅雨の最中だというのに真夏のような暑さが続いています。それでも、駐車場から森の中に足を踏み入ると町の中より5℃ぐらいは低いのではないかと思えるくらい涼しい感じがします。森では、セミたちも鳴き始めました。人気のある大型の虫たちも見られるようになって来ました。夏の花が咲き出す一方で、マンサクなどは来年の花芽の形がわかるくらい大きくなってきました。今年の夏はどのような夏になるのでしょうか。暑い時こそ涼を求めて自然観察の森の森へお出かけください。【写真・文 早坂 徹】

お母さんは大忙し キアシナガバチ



事務所の窓のそばにいつの間にかキアシナガバチが巣をつくっていました。網戸をあけると小刻みに翅を震わせて前脚までプルプル動かしてこちらをじっと見てきます。(威嚇でしょうか)中にはもうすぐ大人となる幼虫がずいぶん大きくなっていましたよ。

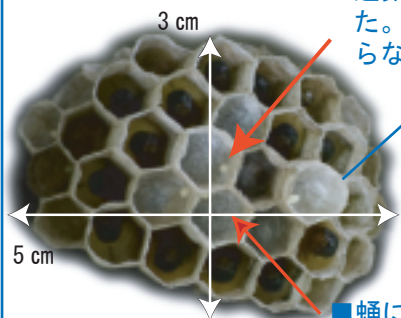
真ん中から順に部屋を作りながら卵を産んで増やしていくので、今のところ外側が一番小さい子たちです。お母さんは肉団子を持ってきては、子に与える前にもう一度団子を回しながら整えて、順番にあげていきます。1回の団子で4部屋の子供たちに与えていました。この時は30部屋だったので、1回ずついきわたるためには、8往復!

アシナガバチの巣は、和紙とほぼ同じ原料(樹皮の靱皮繊維)と唾液由来のたんぱく質で作られています。雨に濡れるとお母さんは水分を口で吸い出して巣を乾かします。また、暑くなると、水分をどこからか含んできて、口から巣にしみ込ませて、翅で風を起こし、気化熱で冷やします。(お母さんは大変だ)

さて、この巣はもうすぐ娘が大人になろうとしています、何匹大人になれるのでしょうか。どうか、スズメバチなどに襲われませんように。

和紙のような巣 の中で幼虫たちは

■6角形の巣はハニカム構造と呼ばれ、軽くて強度があり、また音や衝撃を吸収できて、断熱効果もある優れもの。

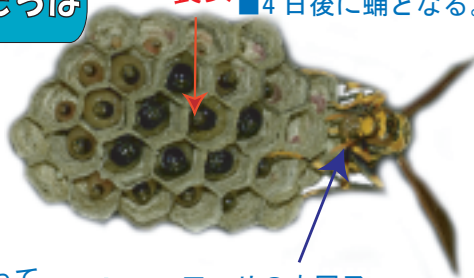


■蓋ができると、早速卵を産んでいました。ここ、邪魔にならないのでしょうか

■少し長くなっています。

■蛹になる前に幼虫はウネウネと体を乗り出して蓋を作ります。

長女 ■4日後に蛹となる。



■エサの肉団子イモムシなどを狩り、肉団子にして持ち帰り子どもに与えます。



【成虫体長：20mm-26mm】

【レンジャー：黒川周子】

*天敵：ヒメスズメバチなどに襲われて、幼虫や蛹を連れ去られることがある。

7月の生物ごよみ

植物

	6月		7月		8月
	下旬	月上旬	中旬	下旬	月上旬
オカトラノオ					
オオバジャノヒゲ					
ヤマユリ					
リョウブ					
ネムノキ					
フシグロセンノウ					

6月27日の朝、1週間ぶりに森の巡回に出かけました。センター前のコナラではカブトムシが樹液を吸っていました。やすらぎの道を歩いていると、香水のようなやわらかい香りがしてきました。まわりを見るとムラサキシキブがたくさん咲いています。どうやら香りの主はこの花のようです。雨だったためか誰にも出会うことなく、この香りをひとり占めしてしまいました。野にはオカトラノオが満開です。カラスザンショウの葉にはナミアゲハの終齢幼虫がいました。クマノミズキの白い花が咲きはじめ、キビタキやオオルリ、メジロなどのたくさんの小鳥たちが囀っていました。雨の日の巡回でしたが、たくさんの自然に出会うことができました。

動物

	6月		7月		8月
	下旬	月上旬	中旬	下旬	月上旬
カブトムシが現れる					
ゲンジボタルが夜空を舞う					
ニイニイゼミが鳴き始める					

【レンジャー：齋 正宏】

森のことは

自然の様子やできごとを四字熟語やことわざなどに当てはめ、森で感じた言葉をお届けします

『能ある鷹は爪を隠す』

ある日甲虫の翅を拾いました。裏側が青く輝きとてもきれいな翅です。こんなに美しい翅の持ち主は誰？ 特徴から思い浮かんだ昆虫の死骸がタイミングよくみつき、翅の裏を見ると青く美しく輝いているのが確認できました。その昆虫はオオヒラタシデムシ。動物の死体があると出てくるので“死出虫”と名付けられた甲虫の仲間です。死体に付いていて臭い汁を出すので汚い虫と敬遠されてしまいますが、死骸などを食べる分解者の役割をしているので“森の掃除屋”と呼ばれ、自然界では重要な存在です。



全身艶消しの黒で地味な虫ですが、内側にオシャレをしていたのですね。このことを知ったとき、「能ある鷹は爪を隠す」という言葉が浮かびました。「才能や真に実力のある者は、普段はそれをひけらかすことはしないというたとえ」のことわざです。きれいではないイメージですが、実は美しく役に立っている立派な虫ということで、ぴったりの言葉だと思いました。

オオヒラタシデムシは、普段は地上をすばしっこく這い回り、飛ぶことがあまりないようなのでいつ翅の美しさを発揮するのかはわかりませんが…。自慢することなく謙虚に生きる美学をこの虫から学びました。



自然の中には隠れたおもしろいものがたくさんあります。特に雨の日には素敵なシーンがひっそりと隠れています。梅雨明けまであと少し、素敵な出会いを探しに雨の季節を楽しんでみませんか？ 【レンジャー：新田隆一】

森のおとしもの



その③ 「下も向いて歩こう」

これは何でしょう？6月の中旬に見つけた“おとしもの”です。



ところで、皆さんは森を散策するときには、上を見ながら歩きますか？それとも下を見て、でしょうか？

たとえば森で小鳥を探す人は、たいてい上を見て歩きます、森の鳥の多くは高い所にいるからです、ちなみに、上ばかり見て足元がおろそかになるので、根っこにひっつまずいて「おととと」となったりします、気をつけないと。逆に、背丈の低い草花に興味がある人はきっと下を見るでしょうね。では、高い樹に咲く花はどこを探しますか？

さて、上の写真の落とし主は、背の高いヤマボウシでした。私は落ちていた花とかを見つければ、反射的に真上を見上げます、実は直接見られない高い樹に咲いている花は、落ちていた花びらなどで気づく場合が多いのです。ホオノキ・イヌブナ・コナラなどは、落ちていた花で先に気づきました。これから楽しみなのはクズの花です、落ちたての紫の花は良い香りがしますよ。皆さんも足元を注意して、頭上の花を探してみませんか？



ちなみに写真のヤマボウシですが、花びらに見えるものは正確には総苞片（そうほうへん）という“つぼみを包んでいた葉”のことで。

【レンジャー：木田秀幸】



のイベント&お知らせ

◆「親子で虫といしよう」 7月14日(土) 10:00~11:30

・親子で虫をさがし、楽しく観察をします。

【定員】20名(幼児~小学3年生と保護者)

【料金】無料

【持ち物】長袖長ズボン、帽子、雨具、飲み物、虫よけ、虫捕り網

【申込み】7月7日(土) 9:00から電話で[先着順]



◆「夏休み企画第一弾! わくわく夜の森探検!!」7月28日(土) 19:00~20:30

・夜の自然観察の森を探検します。セミの羽化が見られるかも!?

【定員】20名(小学生以上)

【料金】無料

【持ち物】長袖長ズボン、雨具、懐中電灯、飲み物、虫よけ

【申込み】7月6日(金) 9:00から電話で[先着順]



◆「館長と森を歩こう」 7月29日(日) 10:00~11:30

・自然観察センター館長が森の生き物たちを楽しく解説します。

【定員】なし 申し込み不要

【料金】無料

【持ち物】歩きやすい服装、飲み物、雨具



毎週日曜は

『ガイドウォーク』の日!

テーマ: 梅雨の雑木林

7月の開催日は

1日、8日、15日、22日、29日

開催時間: 10:00~11:30

13:30~15:00

申し込み不要。時間までセンター前にお集まり下さい。



ヤマツツジの丘からヨシの湿地へ通じる橋が老朽化のため、しばらくの間通行止めになります。

7月の休館日

2日、9日、17日、23日、30日



森のちいさなアトリエ

準備してある材料を使って、誰でも自由にクラフトが作れます。



宮城交通バスの場合

- ① 仙台駅 乗車時間 約40分
 - ② 長町駅東口 乗車時間 約30分
 - ③ 八木山動物公園駅 乗車時間 約10分
- 【行先】①②③ 「太白団地経由山田自由ヶ丘車庫行」乗車
(※③のみ乗車可「太白団地、山田自由ヶ丘経由仙台南ニュータウン行」)
いずれも 公営アパート前 下車→徒歩15分

お車の場合

国道286号線の山田交差点から太白団地方面へ。道々の案内板に従って約10分で駐車場へ。徒歩5分でセンター

♪森へおいでください♪



自然観察の森の最新情報、
「森のおくりもの」バックナンバーは
Webで!

「社のひろば」URL: <http://www.sendai-park.or.jp/web/info/taihakusan/index.html>

2018年7月号(毎月1回5日発行)

発行: (公財) 仙台市公園緑地協会

編集: 仙台市太白山自然観察の森 自然観察センター

〒982-0251 仙台市太白区茂庭字生出森東36-63

TEL: 022-244-6115 FAX: 022-244-6133

E-mail: taihakusan_moushikomi@sendai-green-association.jp